

まさおか
正岡 しき
子規(1867~1902)



俳人。歌人。随筆家。松山城下(現、松山市)出身。本名は常規、通称は升。東京大学予備門(後に第一高等中学校に改組。現、東京大学)に入学後、帰省の際に和歌や俳句を学び関心を深めていった。帝国大学文科大学(現、東京大学)に入学後さらに文学熱を高め、俳句に開眼、写実的態度を確立した。結核の発病後も不屈の気迫で俳句や随筆などの創作や短歌の研究を続けるとともに継承者の育成にも努め、近代文学革新の実をあげ、与謝蕪村や『万葉集』など埋もれていた作家や作品を発掘した。

略歴

慶応3(1867)年9月17日	松山城下の藤原新町に生まれる。
明治13(1880)年	愛媛県松山中学校(現、県立松山東高等学校)に入学
明治16(1883)年	叔父の加藤恒忠を頼って上京
明治17(1884)年	東京大学予備門に入学
明治21(1888)年	旧松山藩主・久松家の創設した常盤会寄宿舎に入舎。初めて咯血する。
明治22(1889)年	咯血が1週間続き、これを切っ掛けとして子規と号す。
明治23(1890)年	帝国大学文科大学哲学科に入学。やがて国文学科に転科
明治25(1892)年	新聞『日本』に紀行文や俳句の話を連載。
明治26(1893)年	大学を中退
明治28(1895)年	日清戦争の従軍記者として清国の金州取材。日本へ帰る途中、大量咯血療養のため帰松し、愛媛県尋常中学校教師・夏目漱石の下宿「愚陀佛庵」で療養しながら、「松風会」の同人らと俳句革新を開始
明治29(1896)年	脊椎カリエスを併発
明治30(1897)年	松山での『ほとゝぎす』発行を援助
明治31(1898)年	『歌よみに与ふる書』を著し、短歌革新を唱え、歌会と万葉集輪講会開催
昭和33(1900)年	写生文を提唱し文章会「山会」を開催
明治35(1902)年9月19日	36歳で永眠。墓所は、東京都北区田端の大龍寺
平成14(2002)年	特別表彰(新世紀表彰)により野球殿堂入り。

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・久保田正文『人物叢書 正岡子規』吉川弘文館 1986年
- ・和田茂樹『正岡子規入門』思文閣出版 1993年
- ・清水房雄『子規漢詩の周辺』明治書院 1996年
- ・柴田宵曲『評伝正岡子規』岩波書店 1997年
- ・坪内稔典『病牀六尺の人生 正岡子規』平凡社 1998年
- ・和田茂樹『人間 正岡子規』関奉仕財団 1998年
- ・松井利彦『正岡子規の研究 上下』明治書院 1998年
- ・土井中照『そこが知りたい 正岡子規の生涯』アトラス出版 2006年

〈主な収蔵資料〉…(P220, 108~109)

〈ゆかりのある場所〉…(P303~305, 158~167)

〈関連施設〉…坂の上の雲ミュージアム

〒790-0001 愛媛県松山市一番町3丁目20番地 TEL: 089-915-2600

松山市立子規記念博物館

〒790-0857 愛媛県松山市道後公園1-30 TEL: 089-931-5566

子規堂

〒790-0023 愛媛県松山市末広町16-3 TEL: 089-945-0400